



# 津波の恐怖！

## 目の前を流されていく車

呆然・・・逃げる小学生と共に車を乗り捨て走って逃げた。振り返ったら押し寄せてきた津波にがれき・倉庫・舟・自動車といっしょに、私が乗り捨てた車も津波に飲み込まれていった。ただ呆然として、この恐怖の様を見つめていた。

三月一日、地震発生当日、夜間作業のため午後一時過ぎに栗原市の耐震現場から、東松島市の東名駅の現場へ向かった。地震にあったのは、野蒜の貞山堀沿いのコンビニの駐車場であった。揺れがある程度治まったので、すぐ近くの東名駅の現場へ向かった。しかし、この線橋の橋台裏が陥没し通れない。迂回している途中に、ラジオから大津波発生が伝えられた。私は一目散に来た道を引き返し、高台に避難した。

津波到達時間を一時間過ぎてもいっこうに津波が来ない。その間、地元のお年寄りから色々な話を聞いた。お年寄り曰く、野蒜では堤防と水門を立派に整備してきた。長年ここに暮

らしているが、津波はここまで来たためしもなく、来るはずも無いと言う。現に、この下の野蒜小学校は指定避難所で、車が数十台もとまっているのが見えた。この話を信じ、仕事のことも気になりはじめてきたので、約100m下方にある小学校近くまで下りて行ってしまった。この行動が間違いで、冒頭の恐怖の体験となる。ちなみに、野蒜小学校は一階部分が津波にのまれ、犠牲者も多く出ている。



野蒜駅より仙台方の被災状況

現在は、新幹線の新白河駅から約30km間の災害復旧工事で奮闘中。元気である。ただ、坂本副委員長の息子さんへの訃報を「ろばた」で拝見した。私も津波が憎い。

ガンバレ坂本、ガンバレ仲間、ガンバレ国労  
(協力会社従事者)

それでも花(桜)は咲く

「すみません」突然後ろから声をかけられた。震災復旧にあたっての自衛隊の方であった。流された家が線路上にあり、片付けるのに架線が支障するらしい。先日、野蒜駅に仮置きしてあるレールの状況調査に行った際のことである。

周りを見渡すと、多くの自衛隊員が行方不明の方の捜索や、がれきの撤去作業を行っている。震災から四〇日を過ぎているが、野蒜駅周辺の震災の爪あとはすさまじい。新聞報道と同じ状況が目前にあった。住居は基礎のコンクリートを残し跡形もない。車があちこちで横倒しとなっている。線路は砂に埋まっている。

いくら仕事とはいえ、レールを運び出すことを考えた自分

が恥ずかしくなり、その前にやる事が山ほどあると痛感させられた。まだこの下に大事な人がいるかも知れないと、不眠不休で探している方々がいる。住む家がなく不自由な生活を強いられている方々がいる。今はそのような人達を最優先して物事を考えるべきである。涙が枯れるまで泣かなければならない人達にける言葉が見つかからない。ただ現場に深々と頭を下げるだけであった。そうした凄惨な現場であるが、残った桜は満開の花を咲かせていた。まるでみんなを励ますかのように。(A記)

### 執行部よりの連絡

- 3月・4月の勤務整理について  
「ろばた」で連絡していますが、超勤・通勤費などで不明なことがありましたら連絡をお願いします。
- 家屋などの被災について  
被害状況調査を行っていますが、まだ報告されていない方は連絡をお願いします。また、労金から災害ローン(無担保)の連絡がきていますので、利用を計画している方は連絡をお願いします。